



## 創立50周年記念事業

### 記念式典並びに記念行事の実施 1月27日(金)

協同組合の創立50周年記念式典並びに記念行事は、1月27日(金)に大阪市北区の「ヒルトンホテル大阪」において、竹山修身堺市長をはじめ各方面から来賓の方々を招き、組合員・友好企業・地区会役員ら総勢180名の出席のもと盛大に開催した。



▲役員の方々

当日は、朝日放送アナウンサーの加藤明子さんの司会により、東京大学名誉教授養老孟司氏による「養老孟司氏が語る“脳”の話」と題した講演会、記念式典、ミニコンサート、祝賀会と盛りだくさんの記念行事が執り行われた。



▲養老孟司氏講演会

記念式典では、開式に先立ち、出席者が創立以来50年の長きにわたり、物故された関係者の方々に対し、併せて、昨年の「東日本大震災」により亡くなられた方々のご冥福を祈り1分間の黙祷を捧げた後、浦本雅史理事長より開式の式辞として、50周年という節目の年を迎えるにあたり、関係各位の暖かいご支援とご協力に感謝の意を表し、「2008年 中期ビジョン」で掲げられた「働く人の満足度が高い工場団地」「環境問題の解決に寄与する工場団地」「地域に貢献する工場団地」という大きな目標に向かい、組合員の相互扶助の精神を基盤として10年後、50年後も元気で活発な工場団地であり続けることの決意を力強く表明された。



▲理事長式辞

来賓を代表して3氏(大阪府知事代理・竹山修身堺市長・社団法人大阪府木材連合会越井健会長)が祝辞を述べられた後、山本洋介総務・経営委員長より、創立50周年を記念して、協同組合では昨年より5つの委員会でも様々な事業を企画し進めてきたことやその概要について説明が行われ、最後に、昨年10月より供用開始が始まった木材団地全般の「公共下水道化」についても、その概要と、堺市行政の取り組みに対する謝意が述べられた。



▲来賓祝辞



▲知事表彰

引き続き、周年記念表彰並びに特別感謝状の贈呈が行われ、約1時間の式典が終了した。

ミニコンサートでは、「絆〜がんばれ日本!」と題して弦楽四重奏により、「故郷」や「上を向いて歩こう」等の耳馴染みのある楽曲の演奏が行われ、その後の祝賀会では、中村暢秀副理事長の開宴の挨拶に引き続き、紙テープが元気よく飛び出す新しいスタイルの鏡開きで会場が多に盛り上がり、最後は浅野敏行副理事長の一本締めで6時間に及ぶ記念行事を滞りなく終えた。



▲ミニコンサート



▲祝賀会 鏡開き

# 組合からの“発信”

今回は、奥谷哲夫副理事長(イスイ株式会社 代表取締役社長)からのメッセージです。「国産針葉樹合板」と「接着剤」に関するお話を寄稿いただきました。

## “国産針葉樹合板と接着剤”

日本の森林面積は国土の約70%を占めており、世界第二位の森林国です。現在、その中でも国産針葉樹である「スギ」の原木が合板用として最も注目されています。

「スギ」材は、5~6年前に小径木用にロータリーレースが開発されたことで、直径18cm位の小径木を剥芯直径3~5cmまで楽々と単板に剥くことが出来るようになりました。

合板の製造は、この単板をドライヤーで8%以下の含水率になるように乾燥させ、中板に水溶性フェノール樹脂接着剤を塗付し、この糊を表板、裏板によく転写するようにコールドプレスで冷圧します。最後に、ホットプレスで135℃で所定の時間、熱圧し国産針葉樹合板ができあがります。

フェノール接着剤の特徴は、過去使われてきたユリア樹脂やユリアメラミン樹脂に比較して、耐水性や耐候性に変えており、さらにシックハウス症候群を引き起こすホルムアルデヒドの放散量が最も少なく、合板の品質規格であるF☆☆☆☆合板を製造することが出来る点にあります。



奥谷哲夫

針葉樹合板は、構造用合板として住宅の床材に厚み24mm、28mm、屋根下地には12mm、壁部分には9mm、12mmの合板がそれぞれ使われています。外観は少々フシがありますが、約100年は持つ針葉樹の強さと、約100年は持つフェノール接着剤の耐候性を併せ持っている針葉樹合板は、最も環境に優しく、地震にも強い木造住宅の縁の下の力持です。まさに「おまえ100まで、わしゃ99まで」ですね。

## CONTENTS

- 組合からの“発信”.....P1
- 組合からの情報発信基地.....P2~5
- 木のある暮らし.....P6
- 堺歴史探訪.....P7~8
- 毎日の健康な暮らし.....P9
- コラム.....P10